人生そのものの問い

日々の暮らしのなかで、人間関係に疲れた時、自分や家族が大きな病気になった時、身近な方が亡くなった時、

「人生そのものの問い」が起こります。

「何のために生きているのか？」

「死んだらどうなるのか？」

人間の知識や経験ではこの問に答えることはできません。目の前に人生の深い闇が口を開け、不安のなかでたじろぐ時、阿弥陀仏の願いが聞こえてくるのです。

親鸞聖人はこのように仰せられました。

阿弥陀仏が成就すると誓われた「必ずあなたを救うから、私にまかせなさい」という願いは、真つ暗な長い夜のように不安に満ちている私の人生を照らし導いてくれる灯火のように頼もしいのです。

(弥陀の誓願は無明長夜のおほきなるともしびなり)

『尊号真像銘文』六六九頁

この灯火をたよりとする時、

「何のために生きているのか？」

「死んだらどうなるのか？」

という「人生そのものの問い」に、確かな答えが与えられるのです。

『ご文章』

蓮如聖人からのお手紙

聖人一流の御勸化のおもむきは、信心をもつて本とせられ候ふ。そのゆゑは、もろもろの雑行をなげすてて、一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として、仏のかたより往生は治定せしめたまふ。その位を「一念發起入正定之聚」とも釈し、そのうへの称名念仏は、如来わが往生を定めたまひし御恩報尽の念仏とこころうべきなり。

あなかしこ、あなかしこ。

『註釈版聖典』一一九七頁

親鸞聖人のみ教えの根本は、阿弥陀さまからいただく他力の信心です。阿弥陀さまの願いがどのように起こされ、今この私のところでどのように成就しているのかを聞くということが大切なのです。

何故なら、自力の修行では救われない私が、阿弥陀さまによって往生成仏することが定められているからです。その救いは、ただ阿弥陀さまかせの救い입니다。思いはかれない仏のおはたらきによって、仏の側から私の往生成仏は定められているのです。

往生成仏が定まった人を「正定聚人」といいます。正定聚人のお念仏は、阿弥陀さまのご恩に報いるための感謝のお念仏なのです。なんと、おそれ多くも、ありがたいことでしょうか。